

令和4年度（令和3年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【 目 次 】

○はじめに		
1 趣旨	5
2 点検・評価の対象	5
3 点検及び評価の方法	5
4 評価者	5
○令和3年度の教育委員会の活動状況		
1 教育長及び教育委員	11
2 教育委員会開催状況	11
3 教育委員会審議案件	11
4 教育委員 主な活動状況	17
○点検・評価		
1 文化を新たに創造するまち 文化スポーツ課	23
2 スポーツを楽しむまち 文化スポーツ課	33
3 学校教育の充実したまち 学校教育課 療育教育総合センター	41
4 子どもも大人も共につながり成長していくまち 社会教育課 図書館	51
5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち 療育教育総合センター	69
6 誰もが心豊かに子育てできるまち 子育て支援課 保育課	77
7 教育委員会への意見及び助言	87

〇はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されています。

本報告書は、この法律の規定に基づき、委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見及び助言をいただき、点検及び評価を実施し、結果を報告するものです。

本市の特色ある教育施策を広く市民の皆さまにお知らせすることにより、教育現場における課題や取り組みの方向性を明らかにし、より一層効果的な教育行政の推進を図り、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象

教育委員会の権限に属する事務及び教育委員会が補助執行により行う事務について、逗子市総合計画実施計画(2015~2022)の各取り組みの方向に基づき設定した目標から点検及び評価の対象とします。

3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、それぞれの目標に対する取り組み概要、自己評価、外部有識者の意見及び今後の課題と取り組みの方向性を記載したシートを作成しました。

そして、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の意見、助言を記載しています。

4 評価者

次の方々から、ご意見及び助言をいただきました。

佐藤 晴雄氏 (日本大学文理学部教授)

寶川 雅子氏 (鎌倉女子大学短期大学部准教授)

【参考】

○地方自治法（抜粋）

（教育委員会の職務権限等）

第百八十条の八 教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育委員会の職務権限）

第二条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- 一 教育委員会の所管に属する第三十条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- 二 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- 三 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 四 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- 五 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- 六 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- 七 校舎その他の施設及び教員その他の設備の整備に関すること。
- 八 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- 九 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- 十 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- 十一 学校給食に関すること。
- 十二 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。

- 十三 スポーツに関すること。
- 十四 文化財の保護に関すること。
- 十五 ユネスコ活動に関すること。
- 十六 教育に関する法人に関すること。
- 十七 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- 十八 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関する
こと。
- 十九 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に
関する事務に関すること。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

○令和3年度の教育 委員会の活動状況

令和3年度の教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

() 内は任期

教 育 長	大河内 誠 (令和 2.4.1～令和 5.3.31)
委 員 (教育長職務代理者)	星山 麻木 (平成 29.12.1～令和 3.11.30) (教育長職務代理者 令和 2.12.17～)
委 員	若林 順子 (令和元.6.26～令和 5.6.25)
委 員	高橋 康 (令和元.12.3～令和 5.12.2)
委 員	福田 幸男 (令和 3.3.17～令和 7.3.16)

※ 平成 29 年度からは、平成 27 年 4 月 1 日に施行された、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づく教育長が任命されました。

2 教育委員会開催状況 (令和 3 年度実績)

定例会 1 2 回開催

3 教育委員会審議案件

4 月定例会 (令和 3 年 4 月 21 日開催)
日程第 1 2 月定例会会議録の承認について
日程第 2 教育長報告事項について
日程第 3 報告第 7 号 教育委員会職員の人事について
日程第 4 報告第 8 号 逗子市スポーツ推進審議会委員の任命について
日程第 5 報告第 9 号 令和 3 年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
【非公開】
日程第 6 報告第 10 号 申請書等に係る押印の見直しに伴う関係規則の整理に関する規則の制定について
日程第 7 議案第 7 号 令和 3 年度工事計画の策定について

<p>日程第8 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の近況について ・逗子市学校施設の長寿命化計画の策定について ・逗子市体育協会の名称変更について
<p>5月定例会 （令和3年5月24日開催）</p> <p>日程第1 3月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p> <p>日程第3 報告第11号 教育委員会職員の人事について</p> <p>日程第4 報告第12号 逗子市社会教育委員の辞任及び委嘱について</p> <p>日程第5 議案第8号 逗子市立図書館協議会委員の任命について</p> <p>日程第6 議案第9号 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施方針について</p> <p>日程第7 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の近況について
<p>6月定例会 （令和3年6月29日開催）</p> <p>日程第1 4月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 5月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第3 教育長報告事項について</p> <p>日程第4 議案第10号 令和4年度使用逗子市立小・中学校教科用図書の新採択方針について</p> <p>日程第5 議案第11号 逗子市文化財保護委員会に対する諮問について</p> <p>日程第6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の近況について ・夏季休業期間中における学校閉庁日について

- ・逗子市いじめ防止基本方針の策定について
- ・オリンピック・パラリンピック推進事業について
- ・屋外市営プールについて

7月定例会 （令和3年7月27日開催）

- 日程第1 教育長報告事項について
- 日程第2 報告第13号 教育委員会職員の人事について
- 日程第3 報告第14号 令和3年度逗子市奨学金受給者の追加給付決定について
- 【非公開】
- 日程第4 議案第12号 令和4年度使用逗子市立中学校教科用図書[社会（歴史分野）]の採択について
- 日程第5 その他
- ・各校の近況について

8月定例会 （令和3年8月26日開催）

- 日程第1 6月定例会会議録の承認について
- 日程第2 教育長報告事項について
- 日程第3 議案第13号 逗子市立中学校給食実施方針の改定について
- 日程第4 その他
- ・各校の近況について
 - ・神奈川県市町村教育委員会連合会研修会について
 - ・図書館の特別整理期間について

9月定例会 （令和3年9月21日開催）

- 日程第1 7月定例会会議録の承認について
- 日程第2 教育長報告事項について
- 日程第3 報告第15号 教育委員会職員の人事について

日程第4 報告第16号 議案（令和3年度逗子市一般会計補正予算（第6号））作成
に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答につ
いて

日程第5 報告第17号 議案（逗子市いじめ問題対策連絡協議会条例について、逗
子市いじめ問題調査委員会条例について）作成に関する逗子
市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第6 報告第18号 逗子市文化財保護委員会の答申について

日程第7 議案第14号 逗子市指定重要文化財の指定について

日程第8 議案第15号 逗子市教育委員会事務分掌規則の一部を改正する規則につ
いて

日程第9 その他

- ・各校の近況について

10月定例会（令和3年10月25日開催）

日程第1 8月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第19号 教育委員会職員の人事について

日程第4 議案第16号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について

日程第5 その他

- ・各校の近況について

- ・令和3年度教育研究相談センター主催夏季研修会のまとめについて

11月定例会（令和3年11月17日開催）

日程第1 9月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第20号 小学校における水泳学習の実施方法について

日程第4 報告第21号 議案（負担付きの寄附の受納について）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第5 報告第22号 議案（令和3年度逗子市一般会計補正予算（第10号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第6 その他

- ・各校の近況について
- ・令和2年度 神奈川県児童・生徒の問題行動等調査結果（公立学校）における逗子市の調査結果について
- ・スポーツの祭典2021について

12月定例会（令和3年12月23日開催）

日程第1 10月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第23号 逗子市社会教育委員の委嘱について

日程第4 報告第24号 逗子市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について

日程第5 報告第25号 逗子市いじめ問題調査委員会に対する諮問について

【非公開】

日程第6 議案第17号 逗子市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について

日程第7 その他

- ・各校の近況について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて
- ・第69回逗子市内一周駅伝競走大会について

1月定例会（令和4年1月20日開催）

日程第1 11月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第1号 教育委員会職員の人事について

日程第4 その他

- ・各校の近況について
- ・中学校給食費の改定について
- ・図書館の開館時間の臨時変更について
- ・子育て世帯への臨時特別給付金について
- ・二十歳を祝う成人の集いについて
- ・第69回市内一周駅伝競走大会の結果について

2月定例会（令和4年2月28日開催）

日程第1 12月定例会会議録の承認について

日程第2 教育長報告事項について

日程第3 報告第2号 議案（令和3年度逗子市一般会計補正予算（第14号）及び令和4年度逗子市一般会計予算）作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について

日程第4 報告第3号 逗子市社会教育委員の辞任について

日程第5 議案第1号 逗子市立体育館指定管理者候補選定委員会規則の一部を改正する規則について

日程第6 その他

- ・逗子市立久木小学校長寿命化について

3月定例会（令和4年3月25日開催）

日程第1 1月定例会会議録の承認について

日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第4号 県費負担教職員の任免内申について【非公開】
日程第4	報告第5号 教育委員会職員の人事について
日程第5	議案第2号 逗子市池子遺跡群資料館管理運営規則の一部を改正する規則について
日程第6	議案第3号 逗子市スポーツ推進委員規則の一部を改正する規則について
日程第7	議案第4号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について
日程第8	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会（4/24）	勉強会（4/24）
5月	定例会（5/24）	学校訪問（5/7、5/11、5/12、5/13、5/25 5/26） 勉強会（5/24）
6月	定例会（6/29）	学校訪問（6/3） 勉強会（6/29）
7月	定例会（7/27）	勉強会（7/27）
8月	定例会（8/26）	総合教育会議（8/26） 勉強会（8/26）
9月	定例会（9/21）	勉強会（9/21）
10月	定例会（10/25）	勉強会（10/25） 学校訪問（10/26、10/27）

11月	定例会（11/17）	学校訪問（11/9、11/11、11/12、11/16） 勉強会（11/17）
12月	定例会（12/23）	勉強会（12/23）
1月	定例会（1/20）	勉強会（1/20）
2月	定例会（2/28）	勉強会（2/28）
3月	定例会（3/25）	中学校卒業式（3/9） 勉強会（3/25） 小学校卒業式（3/18）

○ 点検・評価

点検及び評価の対象

取り組みの方向		目標（2022年度（令和4年度））		所管課
1	文化を新たに創造するまち	1	逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。	文化スポーツ課
		2	文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90 パーセントを超えている。	文化スポーツ課
		3	ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75 パーセントになっている。	文化スポーツ課
		4	文化プラザホールの入場者（観客）が年10 万人以上になっている。	文化スポーツ課
2	スポーツを楽しむまち	1	逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ5,000人になっている。	文化スポーツ課
		2	「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1 回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7 パーセント）となる。	文化スポーツ課
		3	総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が1,000 件になっている。	文化スポーツ課
3	学校教育の充実したまち	1	「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。	学校教育課
		2	すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。	学校教育課
		3	個別支援が必要なすべての児童生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。	学校教育課
		4	ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童生徒のニーズに応じて行っている。	学校教育課
4	子どもも大人も共につながり成長していくまち	1	地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。	社会教育課
		2	社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による、受講者評価が80 点を超えている。	社会教育課
		3	地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。	社会教育課
		4	市指定文化財の数が増加している。	社会教育課
		5	名越切通、長柄桜山古墳群第1号墳の整備が完了し、公開活用されている。	社会教育課
		6	文化財収蔵庫が設置され、遺物が適正に保管されている。	社会教育課
		7	図書館において、様々なテーマ設定により年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。	図書館
5	障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち	1	（仮称）療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことのある子どもの、市内の18 歳までの子どもに対する割合が9.5 パーセントになっている。	療育教育総合センター
		2	（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18 歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。	療育教育総合センター
6	誰もが心豊かに子育てできるまち	1	子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018（平成30）年度の年間アクセス数の20 パーセント増となっている。	子育て支援課
		2	逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000 人、年間延べ利用者数が60,000 人になっている。	子育て支援課
		3	「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25 パーセントになっている。	子育て支援課
		4	教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。	保育課
		5	ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000 人になっている。	子育て支援課

1 文化を新たに創造するまち

（基本構想の取り組みの方向）

文化芸術は、生活に潤いや刺激を与え、共感や連帯を生み、人の心を豊かにします。さらに、新たな付加価値を生み出すなど、地域社会にとっても多様な可能性を秘めています。

わたしたちは、逗子の伝統文化を継承するとともに、潜在的な文化資源を掘り起こして、地域の文化を市民の手で拓き、互いを高め合い、育むことで、「まちが文化を活かし、文化がまちを活かす」地盤をつくります。そして、逗子の多彩な文化資源と恵まれた自然環境を背景に生まれる、個性的で創造的な文化芸術の力で、文化と自然がつむぐ活力あるまち（地域社会）の発展をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
逗子アートフェスティバルの参加企画数が30 企画になっており、質の向上が図られている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	文化活動振興事業（逗子アートフェスティバルの充実）
事業内容	目的：文化と自然がつむぐ活力あるまちを実現させる。 手段：逗子アートフェスティバルをはじめとする文化振興事業を推進し、市民が主体的に実施する文化芸術活動について、後援等により支援する。また、逗子アートフェスティバル負担金を交付し、トリエンナーレとして事業を実施する。
実績	○逗子アートフェスティバル（ZAF）2021の開催 開催期間 10月15日～11月25日、12月3日～5日 来場者数 約6,500人 企画数 22企画 【内訳】 ・本企画…12 企画 ・自由企画…10 企画
自己評価	新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響により、中止や内容変更を要した企画もあり、全体での企画数は22 企画と、目標に掲げていた30 企画には及ばなかった。しかし、オンラインを活用する等の工夫により、コロナ禍でも参加可能なイベントとした。また、作品制作への市民参加等のイベントを通じた地域コミュニティの活性化や、地域課題に着目した企画の開催等により、事業の質の向上は図られている。
外部有識者の意見	コロナ禍でも対策を講じ、開催可能な方法を検討したことは評価できる。また、活動に当たって市民が主体的に活動していることは、文化活動に携わる市民を増やし、将来的な地域文化の担い手の育成に貢献していると考えられる。一方で、メンバー以外の市民の参加や協力を促す方法については、今後も検討の余地がある。

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	令和3年度の実績を基に、コロナ禍でも開催できる手法を今後も検討していく必要がある。また、市民の主体的な活動を支援するとともに、トリエンナーレ年における予算措置と、それ以外の年も含めた人的支援や、事業への協力等を継続していくことが求められる。
------------------------	--

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が90パーセントを超えている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	○自主文化事業 22 事業実施 【内訳】 ・まちづくり事業 … 2 件 （参加者アンケート満足度 95.4%） ・トモイク事業 … 7 件 （参加者アンケート満足度 85.3%） ・社会包摂事業 … 3 件 （参加者アンケート満足度 87.2%） ・地域資源活用事業 … 4 件 （参加者アンケート満足度 79.0%） ・鑑賞事業 … 6 件 （参加者アンケート満足度 78.6%） ○文化プラザホール維持管理事業実績額 252,818 千円（うち指定管理料 213,544 千円）
自己評価	目標の 90% に及ばない事業もあるが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響が続く中、対策を講じながら実施可能な方法を検討した。前年度に引き続き、まちづくり事業のアウトリーチ活動で招いた講師がホールでの鑑賞事業を行う等、事業間で関連性を持たせ、ホールへの来場者増につなげた。トモイク事業では、公演と併せてアウトリーチやワークショップを行い、コロナ禍でも文化芸術に触れる機会を提供した。社会包摂事業で

評価シート

	<p>は、0歳から入場可能な公演を行い、親子でホールを訪れるきっかけを作った。</p>
外部有識者の意見	<p>コロナ禍でも実施可能な方法を検討し、鑑賞型事業のテーマに沿った各種講座やワークショップ等のまちづくり事業を実施したことは、文化芸術に接する機会の拡充につながるものとして評価できる。今後も、公演につながるワークショップやアウトリーチ等を行ったり、広報のあり方を工夫する等して、市民の関心を高めるよう努めてもらいたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>指定管理業務に対するモニタリング等を通して事業の進捗や結果について把握するとともに、課題の把握と分析を指定管理者と協力して行っていく。特に、社会包摂事業の強化に向け、アート便の対象拡大について検討していく。</p>

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が75パーセントになっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	○貸館利用者アンケート 令和3年11月25日～令和4年1月31日実施 「満足」「とても満足」合わせて71.5% ○利用者懇談会 令和4年2月8日 電話アンケートで実施 ○指定管理者とのモニタリングを毎月実施 ○新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止に伴う臨時休館 令和3年8月18日～9月30日 ○コロナに起因する予約キャンセルに伴う利用料金の還付（15件）、振替対応（86件） ○文化プラザホール維持管理事業実績額 215,769千円（うち指定管理料213,544千円）
自己評価	コロナの影響により、利用者にとっては様々な制限下での利用となったこと、施設予約システムが変更になったこと等により、ホール貸館利用者アンケートによる満足度は低下したが、状況に応じて柔軟に対応した。特に、コロナに伴う利用制限等についての丁寧な説明や対応等により、利用者に安心感を持ってもらい、積極的な利用につながるよう心掛けた。
外部有識者の意見	コロナの影響はあったが、その都度、利用者のニーズに合わせた運営を行ったことがうかがえる。今後も利用者の意見を把握し、柔軟な運営を行ってほしい。

評価シート

今後の課題と 取り組みの方 向性	指定管理業務に対するモニタリング等を通してホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、解決に向けて協議していく。
------------------------	---

評価シート

所管課：文化スポーツ課

目標【2022年度】
文化プラザホールの入場者（観客）が年10万人以上になっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	文化プラザホール維持管理事業
事業内容	目的：文化プラザホールの適切な管理、運営を行う。 手段：ホールを利用する人が快適に過ごすことができるよう、貸館業務を実施するとともに、警備、舞台運営を含めた必要な管理業務を行う。
実績	○入場者数 44,150人 【内訳】 なぎさホール 29,719人 さざなみホール 14,431人 ○新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大防止に伴う臨時休館 令和3年8月18日～9月30日 ○文化プラザホール維持管理事業実績額 252,818千円（うち指定管理料213,544千円）
自己評価	コロナ拡大防止による臨時休館や、開館中の利用制限等の影響により、実績が大幅に減少し、目標を達成できなかった。
外部有識者の意見	文化振興への貢献度を測る方法として、入場者数が評価の対象として相応しいかは検討の余地がある。 入場者数が減少した原因については、コロナ拡大防止に伴う休館や利用制限等によるものと考えられるが、コロナの影響は今後も続くことが予想されるため、安心して利用できる施設となるよう、市民ニーズを踏まえた運営について検証してほしい。
今後の課題と取り組みの方向性	コロナの影響は今後も想定されるため、指定管理業務に対するモニタリング等を通してホールの運営状況や課題について指定管理者と共有し、把握する。さらに、コロナ禍での適切な運用と、入場者増に向けた取組みを続けていく。

2 スポーツを楽しむまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、スポーツ都市宣言の理念に基づき、市民一人ひとりがスポーツに親しみ健康な心とからだをつくる「健康づくり」、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり明るい生活を営むことができる「場づくり」、スポーツを通じていきいきとした地域連携の輪をひろげる「交流づくり」、スポーツを通じて活気に満ちたまちづくりを推進する「基盤づくり」を進めます。

一人でも多くの市民が、スポーツに親しみ、互いに高め合うことで、健康で豊かな生活を送ることができるよう、いつでも、どこでも、誰もが気軽にスポーツ、健康づくりができるまちをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

目標【2022年度】
逗子市スポーツの祭典への参加者が延べ 5,000人になっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）
事業内容	<p>目的：市民が生涯にわたって、生活の一部にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しんでいくために、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、継続的にスポーツをするためのきっかけづくりとする。</p> <p>手段：逗子市スポーツの祭典実行委員会が主催し、逗子市スポーツ協会をはじめ市内スポーツ関連団体等と協働して、逗子市スポーツの祭典を開催する。</p>
実績	<p>○逗子市スポーツの祭典2021を開催</p> <p>開催日時 12月12日（日）</p> <p>開催場所 逗子アリーナ 第一運動公園 オンライン（YouTube）</p> <p>参加者数 2,893人（前年度 1,774人）</p> <p>イベント数 38 種目（前年度7種目）</p> <p>東京 2020 オリンピック聖火リレートーチの展示、東京 2020 パラリンピックで使用したボッチャシートの活用や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技の体験など、東京 2020 のレガシーとしたイベントを行うことができた。</p> <p>実行委員会交付金：220,000 円</p>
自己評価	<p>市民まつりと同日に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染（以下「コロナ」という）状況悪化のため延期し単独で開催した。「ボッチャ」「モルック」などの経験がなくても楽しめるスポーツメニューや、車いすの方の参加（バドミントン）もみられる等、年齢や性別、障がいの</p>

	<p>有無に関わらずスポーツが楽しめるイベントとなり、子どもから高齢者まで多くの人の参加があった。</p>
外部有識者の意見	<p>コロナの影響により延期しての開催となったが、障がいの有無、年齢・性別、スポーツ経験の有無などにかかわらず気軽に参加できる種目の設定等の工夫がみられ、昨年度に比べて大幅に参加者数が増えたことは評価できる。また、スポーツの祭典が市民のスポーツを始める、継続するきっかけづくりになったと考える。</p> <p>コロナの影響が収まらず、実施時期の状況が予測されない中で、早く中止を決める自治体も多いが、実施までたどり着かせた主催者の努力は評価できる。実施をめざすことで感染対策の在り方など良い事例となっている。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>コロナ禍において安易に中止、延期とせず、実施の可否についての慎重な検討は今後も継続されたい。</p> <p>誰でも楽しめるイベントとなるように、ニュースポーツの採用や、種目を多く設定する等、取り組みの工夫を検討し、今までスポーツをしていない人たちの参加につなげる。また、スポーツの祭典で経験したことが、その場だけにとどまらず、継続していけるように望む。</p> <p>オンラインの運動企画は、スポーツをする習慣のない人、会場に来ることが難しい人の運動の機会の提供として有効だと考える。体を動かす楽しさを知ってもらう、少しずつ動けるようになることを楽しむようになる等、対象を広げていくことを期待する。</p>

目標【2022年度】
「（仮称）スポーツに関する実態調査」において、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（66.7パーセント）となる

令和3年度の取り組み

関係する事業名	スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）
事業内容	<p>目的：市民のスポーツによる健康づくりのための支援体制を構築する。</p> <p>手段：スポーツによる健康づくりのための相談及び相談機会の情報提供を行う。また、スポーツ・健康づくりの教室、指導者等の情報収集及び運用方法等を検討する。</p>
実績	<p>○逗子アリーナ未病センターにて、（公財）逗子市スポーツ協会によるスポーツ健康相談等を実施した。</p> <p>健康・体力相談 32回、相談者78人 （R2年度 8回、相談者22人、 R元年度39回、相談者125人）</p> <p>○（公財）逗子市スポーツ協会が市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知に努めた。</p> <p>○小学生のためのスポーツ団体一覧を作成し周知した。市立小学校児童に配付、市ホームページの掲載、公共施設に配架。</p> <p>○市ホームページ上で市内のスポーツ情報を集約したページを新たに設け、活用しやすい環境を作った。</p> <p>○Zushi パーソナルトレーニングプログラムは、令和2年に続き新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という）の影響により中止した。</p>
自己評価	<p>成人の週1回以上のスポーツ実施率は56.1%で、目標値と全国平均58.7%を下回ったが、前年度の実施率は保っている。</p> <p>健康・体力相談については、コロナの影響が大きかった前年度より増加し、開催回数は令和元年度の水準まで回復した。需要も多く一定の相談に応えることができています。</p>

<p>外部有識者の意見</p>	<p>スポーツ参加の入り口として健康相談や体力相談は効果が高いと考える。この参加者の大きな増加は、コロナによる不安も含めて、健康維持に向けて前向きな数字と受け止められ、「成人の週1回以上のスポーツ実施率」が前年度の実施率を保っている結果と共に評価できる。</p> <p>子どものスポーツ参加率は、将来の成人のスポーツ実施率にも大きく影響すると考えられ、小中学生のためのスポーツ団体の存在は、学校の部活動にとどまらないスポーツとの関わりを支える意味で極めて重要であり、「スポーツ団体一覧」等の周知は一定の効果を上げている。また、市ホームページ上で新設した市内のスポーツ情報を集約したページでは、逗子市にゆかりのあるアスリートが掲載されているなど魅力を感じる。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>中学生以上の運動部活動の地域への移行が検討されていることを鑑み、小学生・中学生等のスポーツ実施状況等の実態把握のためのアンケート収集を行い、子どもたちの興味・関心に応えうるような種目の追加を検討されたい。また、健康維持に寄与している健康相談や体力相談等の相談機会の更なる増加を期待する。</p> <p>市ホームページのトップページからスポーツ情報ページへのアクセスをしやすくするバナーの作成や、市内で開催されたスポーツ大会の結果や参加者の声、市内の指導者やボランティアに関する情報を掲載するなどコンテンツの充実に加え、市教育委員会と連携し市内小学校のホームページにもリンクを設け、市のSNSを活用した広報を検討し認知度を高める取組を期待する。</p>

目標【2022年度】
総合型地域スポーツクラブ（うみかぜクラブ）の会員登録数が 1,000 件になっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	（逗子市スポーツ協会の自主事業）										
事業内容	<p>目的：生涯にわたって、誰もが気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与する。</p> <p>手段：逗子市スポーツ協会、「うみかぜクラブ」との協議により高齢者向けスポーツのプログラムを含む各種教室を実施する。</p>										
実績	<p>○うみかぜクラブの会員登録数及び参加者数を増やすため、実施メニューを精査し、人気のあるメニューの開催回数を増やした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全メニュー数 15 件（前年度 19 件） ・延べ開催回数 753 回（前年度 398 回） ・延べ参加者数 21,123 人（前年度 12,126 人） ・会員登録数 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>544 件 (614 人)</td> <td>440 件 (498 人)</td> <td>483 件 (535 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○高齢者体力アップ体操を 2 年ぶりに開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加人数 976 人（前年度中止） 			年度	R元	R2	R3	件数	544 件 (614 人)	440 件 (498 人)	483 件 (535 人)
年度	R元	R2	R3								
件数	544 件 (614 人)	440 件 (498 人)	483 件 (535 人)								
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という）の影響が大きかった前年度より回復がみられ、令和3年度会員登録数は 483 件だった。</p> <p>コロナの影響により施設利用の制限がある中でも、人気のあるメニューの開催回数を増やすことで多くの人に参加できる環境を作り、令和3年度延べ参加者数は 211,123 人と前年度より大幅に増加した。</p>										

<p>外部有識者の意見</p>	<p>コロナが収束しない状況の中、スポーツに親しむことを念頭に、前年度に比べて会員登録数、延べ参加人数の回復が見られ、市民の健康維持・増進に寄与できたことは評価できる。</p> <p>事業が市民のスポーツとの関わりで重要な役割を果たしており、引き続き現事業の維持に努めてもらいたい。</p>
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<p>会員登録数と共に満足度を指標に加え、市民のニーズに 대응する新たな種目を追加することや、現行の種目のメニューの見直しや増加について逗子市スポーツ協会・うみかぜクラブとの協議を行う。また、市内中学校と連携し、全国的に進められる部活動の地域移行に向けた取組の試験的運用等の取組についても検討されたい。</p> <p>コロナ禍での実施にあたって、これまでの実績や実施のノウハウを蓄積し継承する。</p>

3 学校教育の充実したまち

(基本構想の取り組みの方向)

人は自然と社会の中で生涯学び続けていくことが必要です。その入り口の一つとして学校教育は大きな役割を果たすものです。今日、価値観の多様化や高度な情報化社会の中にあって、子どもたちが身につけなければならない力は多岐にわたっています。これまで受け継がれてきた知識や文化・伝統などを踏まえ、地域社会や家庭と連携し人間性溢れる教育、限りある命を生きていることの素晴らしさを感じることができる教育を行っていくこと、そしてこれからの国際社会の一員として生きていく力を養うことが必要です。

いつの時代にも変わってはならない本質の部分の土台に、その時々々の教育的課題に臨機応変に対応して、「豊かな人間性」・「確かな学力」・「健康な心身」を目標として『自ら考え、心豊かに、たくましく生きる逗子の子ども』の育成を図ります。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
「お互いを認め合える学級づくり」が、すべての学級で行われている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に学び共に育つ教育を推進し、温かい人間関係を構築しながら、お互いに認め合える集団をつくる。 ・いじめなど問題行動に対して、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を学校組織として推進する。 <p>手段：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に向けて生活アンケートを定期的実施する。 ・成長段階に応じて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を取り入れられるようなアドバイスおよび提案を行う。 ・支援教育推進巡回チームなど専門機関によるコンサルテーションを活用して集団づくりにあたる。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、新型コロナウイルス感染症防止対策として新しい生活様式を行いながら、集団づくりに取り組んだ。支援教育推進巡回チームや教育指導教員を派遣し、教職員全体及び関係機関も含め、児童・生徒を見守る体制整備を行った。 ・これまでの経験を踏まえ、様々な行事の実施方法について検討し、児童・生徒の体験的な学びの場を大切に実施した。しかし、地域の方々との交流の場づくりについては、感染防止の観点から、十分に行うことができる状況は作れなかった。

評価シート

<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍において感染症予防対策を図りながら、児童・生徒の学びの保障、行事等の実施について、校長会議等で情報共有しながら取り組むことができた。 • 児童・生徒との関わり方や指導等の注意点について、支援教育推進巡回チームから心理専門の観点による資料作成や研修を実施し、児童・生徒理解を深めるとともに学級づくり等に活かすことができた。
<p>外部有識者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍であっても、各学校が支援教育推進巡回チームや教育指導教員と協力しながら、最大限の取り組みを行ってきたことに敬意を表したい。 • 「お互いを認め合える学級づくり」「集団づくり」は、不登校やいじめに係る未然防止にとどまらず、安心して自らの意見表明ができる、「主体的な学び」の基盤づくりにも繋がるので、取り組みの一層の強化を期待する。
<p>今後の課題と取り組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍の状況が続く中、これまでの指導方法、行事の精選や内容などを見直して実施した。感染状況により、やむを得ず中止をした行事もあったが、教職員が児童・生徒と向き合う時間を確保するため、引き続き行事の精選や会議、研修等の実施方法の見直しを行う。 • 感染拡大防止などの観点から例年通りの計画や実践を重ねることが難しい状況が続いているが、新しい生活様式の中でお互いを認め合える学級づくりが進められるよう効果的な ICT の活用を含め取り組みたい。

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
すべての教員が「自己チェックリスト」を活用して授業と学級経営についての振り返りを行っている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	教員の授業力・学級経営力・児童・生徒指導力向上重点事業
事業内容	<p>目的：各市立学校において、「わかりやすい授業」や「お互いを認め合う学級づくり」などに関する教員の指導力向上を図り、予防的な指導・成長を促す指導・課題解決的な指導を推進することによって、児童・生徒の健全育成をより一層図る。</p> <p>手段：①年3回Googleフォームにより実施し、分析をしてもらうよう校長会議等諸会議で依頼②支援教育推進巡回チームや教育指導教員による助言・指導に活用する。</p> <p>内容：授業・学級経営・児童・生徒指導・人権感覚の自己チェックリスト活用を図り、教育指導教員や支援教育推進巡回チームと改善策を協議する。</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業」「学級経営」についての自己チェックリストをすべての教員が年3回実施した。 ・管理職が自己チェックリストの分析を行い、必要に応じて、教員に対して指導・助言を行った。 ・「授業」に関するチェックリストをもとに、教育指導教員と支援教育推進巡回チームがフィードバックを行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から開始したGoogleフォームでの自己チェックリスト活用は、集計や分析が容易になったと学校現場から評価を得ている。 ・分析結果をウェブ上で見ることができると、支援教育推進巡回チームや教育指導教員が確実に結果を確認することができ教職員へのフィードバックに活かすことができた。

評価シート

外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">• GiGA スクール構想の実施前倒しに伴い、支援教育推進巡回チームや教育指導教員が学校訪問をする際に、指導・助言の対象となる教職員の自己チェックリストを、その場で確認できるようになったことは大きな前進と言える。• 今後は、「自己チェックリスト」の質問項目についても振り返りを行い、必要な改訂を行っていくことが望ましい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none">• 支援教育巡回チームや教育指導員が、教員一人ひとりの授業観察を行った後、教員と振り返りの時間確保が課題となっている。• 教員の現状と自己チェックリストの自己評価にギャップがあった際には、より具体的な手立てを提示するなど、ギャップが埋められるよう工夫する。

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
個別支援が必要なすべての児童・生徒に対し、支援シートが作成され、活用されている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	教育相談事業・就学事務事業
事業内容	<p>目的：・円滑な就学を図るために、就学予定者の適切な就学指導を行う。</p> <p>・小・中学校に在籍する支援を必要とするすべての児童・生徒について、支援シートを作成し、日常的な支援に活用する。</p> <p>手段：・就学支援委員会において支援が必要な児童・生徒への適切な支援について協議する。審議資料として支援シートを活用する。</p> <p>・支援を必要とする児童・生徒について、学校・家庭・福祉が連携して支援シートを作成し、日常的な支援に活用していく。</p> <p>内容：就学支援委員会に係る費用</p> <p>・委員会医師報酬 91千円</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の就学相談件数は未就学53件、既就67件計120件あった。 ・就学相談を行った未就学児童の保護者に対し、支援シート作成の協力を依頼したところ、47件中43件作成され、小学校へ引き継がれた。 ・逗子市就学支援委員会の審議件数は64件あった。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との合意形成を図るため、就学相談担当は丁寧な就学相談を心がけている。 ・就学相談の件数は年々、右肩上がりに増えており、その対応について今後どのようにするか検討する必要がある。 ・支援シートは、特別支援学級在籍児童・生徒、通級指導教室通室児童については、100%の作成できている。不登校児童・生徒、その他支援が必要な児童・生徒の支援シートの作成についても少しずつ取り組んではいるが、

評価シート

	作成する目的やその活用について教職員の理解を深める必要がある。
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">• 支援シート作成に当たっては「教育と福祉の連携」を図るべく、コロナ禍にあってもできる限りの情報共有が進んできたことは喜ばしい。• 支援シートの作成は飽くまでスタートに過ぎず、保護者、関係機関とのコミュニケーションを密にして、定期的に振り返りを行い、更新することが望ましい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none">• 支援を必要とするすべての児童・生徒にとって有効なツールであることを、保護者・学校・関係機関等に向けて、改めて説明することで活用促進に努める。• 丁寧な就学相談を行ない、増加している件数に見合った相談体制を検討していく必要がある。

評価シート

所管課：学校教育課

目標【2022年度】
ICT（情報通信技術）環境を整え、情報機器を活用した授業づくりをすべての教員が児童・生徒のニーズに応じて行っている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	教育用コンピュータ維持管理事業
事業内容	<p>目的：・児童・生徒への情報教育の促進を図る。 ・教員の指導力の向上を図る。</p> <p>手段：・授業力向上を目的とした研修を設定する。 ・課題等の情報共有・上記目的達成に繋がる協議を目的とした、教育情報化推進会議を開催する。</p> <p>内容：・コンピュータ、その他周辺機器等の維持管理 ・授業力向上研修 ・教育情報化推進会議開催 ・校内研究の実施</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・国のGIGAスクール構想の補助金を受け、市立小・中学校に高速通信ネットワークと一人1台の端末を整備した。 ・端末の整備に伴い、授業での活用が期待されるアプリの使用方法等の研修会や端末の活用を推進するための研修会を実施した。 ・教育情報化推進ガイドラインに続き、情報教育端末の扱いや個人情報の管理、情報リテラシー等について教職員に対し周知徹底した。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想による、児童・生徒一人1台の端末が前年度末に他市町より先んじて整備されたおかげで、スムーズに導入することができ、授業での活用が進んでいる。 ・活用に向けては、国や県からの情報を学校へ周知したり、先進事例の紹介を行ったりした。利活用に向けた実践的、体験的な研修の機会を持ったものの、十分ではなかった。

評価シート

外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">• この間の ICT（情報通信技術）環境整備は、逗子市にあっては比較的順調に行われてきたと評価する。• これからは、個々の児童・生徒の「個別最適な学び」の実現に向けて、ICT 活用授業に資するソフトの開発や情報共有、実践事例の積み上げ等が必要となる。• また、逗子市が早くから学校教育に導入したネットワークシステムを活用して、「教職員の働き方改革」に繋がる「事務の効率化と事務量の軽減」にも一層取り組んで欲しい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none">• 教育情報化推進に係る、情報セキュリティポリシーと実施手順を作成した。その内容に沿って進行できるよう管理するとともに、定期的な見直しを教育情報化推進会議で検討していく。• 授業における端末の活用が、学校間や教員間で差が出ないように、研修会の実施や、学校間の垣根を超えた情報共有の手段など工夫し、教員の負担軽減に繋がられるようにしたい。

4 子どもも大人も共につながり成長していくまち

(基本構想の取り組みの方向)

わたしたちは、将来像の中で「人間を大切にするまちでありたい」とうたっています。この理念の実現のためには、市民一人ひとりが地域に愛着を持ち、まちづくりに積極的に関わる「ひとづくり」がその第一歩となります。

社会教育の充実をめざして、過去から附託された人類共通の財産である文化財を適切に保存し、未来に引き継いでいくとともに、現代的課題や地域課題について、共に学び、個を高め合う機会を広く市民に提供し、学校、地域、家庭のつながりを強化していくことで、地域社会、さらには世界に貢献できる「ひとづくり」に市民と共に取り組んでいきます。

わたしたちは、子どもも大人も共につながり成長していくまちの実現をめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】

地域課題の解決に向けた人材育成のための講座やイベントが開催されている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	各種講座事業（地域課題）
事業内容	<p>目的：市民の高度な学習要求に応えるため、逗子の歴史や文化財、現代的課題、地域課題等の学習機会を提供する。市民の学習活動やまちづくり、ひとづくりの講座を開催することで、地域活動等へのデビューのきっかけづくりを行い、地域の課題を地域で解決できる人材育成をめざす。</p> <p>手段：逗子の歴史や文化財、現代的課題の講座、地域の課題を地域で解決するための人材を育成する講座等を開催する。</p> <p>内容：・サードエイジ連続講座 業務委託料（1講座・全4回） 100,000 円 ・逗子の歴史と文化財講座 講師謝礼金 30,000 円</p>
実績	<p>・サードエイジ連続講座 逗子の魅力を楽しく学び、友人・仲間を見つけ、学んだ知識を地域社会へ活かすことを目的とした「サードエイジ連続講座」を平成27年度から引き続き開講し、第7期目となった。NPO法人逗子まちなかアカデミーと協働により実施。各回の内容は次のとおり。</p> <p>第1回：逗子の歴史を学びま専科「三浦一族が語る鎌倉殿と逗子」</p> <p>第2回：ファミリーストーリーを訪ねま専科「歩んできた人生を文字として残すその第一歩とは」</p> <p>第3回：SDG'sを日々の生活に取り入れま専科「思いやり、共感、レジリエンス、SDG'sの根底にある本質とは」</p> <p>第4回：三浦アルプスのことを知りま専科「逗子葉山で一</p>

評価シート

		番自然が残る、森戸川流域の自然を知る」				
		出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	
		第1回	48名	87.5%	88.1%	87.7点
		第2回	18名	83.3%	86.7%	89.6点
		第3回	19名	100.0%	84.2%	84.7点
		第4回	30名	93.3%	78.6%	87.2点
		<ul style="list-style-type: none"> • 逗子の歴史、文化財に関する講座 地域に対する知識と理解を深めることで地域づくりに繋がる人づくりに向けた動機づけとすべく、郷土の自然と歴史、文化遺産を学習する機会を提供し、市民の自主的な学習活動や地域活動のきっかけづくりとした。 講師は、横浜国立大学大学院教授、および社会教育課会計年度任用職員。 ①「池子神明社の神輿の特質」 ②「松平定信と相州巡見～谷文晁「鐙摺浜図」について～」 				
		出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	
		①	34名	85.3%	75.9%	88.9点
		②	33名	100.0%	69.7%	76.1点
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> • サードエイジ連続講座は、年々、受講者が企画側に参加しているなど、講座修了生の活動の場となっている。当該講座については、委託先のNPO法人による主宰イベント等において、受講者の地域参画をサポートするなど、人材育成に寄与している。 • 歴史と文化財講座は、高齢者の関心が高く、元気な高齢者づくりの効果が期待できる。 • 逗子市指定重要文化財など、地域に根差した文化財について学ぶ機会は、非常に貴重と考える。 					

評価シート

外部有識者の意見（社会教育委員会）	<ul style="list-style-type: none">• 地域の歴史に関する講座については興味深いテーマを選択し、実施できたことを評価する。特にサードエイジ連続講座については受講生同志のつながりが生まれるなど成果をあげており、継続してほしい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none">• 人材育成に係る講座は、短期的な効果が見えにくいですが、受講者を企画側に取り込むなど、フォローアップができるNPO 法人と継続的に連携、実施することで、修了生の活動について中長期的に検討していく。• 地域課題に取り組むことができる人材育成について、過去の受講生のフォローアップを視野に入れ、長期的な視点で展開していく。

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】

社会教育講座等各種講座において、アンケート調査による受講者評価が80点を超えている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	人権教育等事業																												
事業内容	<p>目的：人権問題について正しい理解を深める。 手段：人権啓発事業を実施する。 内容：</p> <p>講師謝礼金 90,000 円 人権啓発映画賃借料 39,000 円 人権教育啓発用パンフレット印刷費 157,000 円</p>																												
実績	<ul style="list-style-type: none"> 人権啓発リーフレット「暮らしの中の人権（学校編）」を作製。市内中学校生徒・教員等に配付。 人権教育講演会 <ol style="list-style-type: none"> 「子どもが大切にされるってどんなこと？（子どもの人権）」 「“me too” から見える日本の性暴力の現状」 「障害ってなんだろう 障害はどこにあるのだろう」 「全国中学生人権作文コンテスト逗葉地区入賞者の表彰と朗読」および上映会（市民協働課、葉山町と共催）映画「グリーンブック」の上映 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>出席者数</th> <th>アンケート回収率</th> <th>点数記載率</th> <th>平均点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>12名</td> <td>75.0%</td> <td>88.9%</td> <td>90.6点</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>12名</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>96.9点</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>12名</td> <td>83.3%</td> <td>70.0%</td> <td>88.1点</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>57名</td> <td>68.4%</td> <td>79.5%</td> <td>88.7点</td> </tr> </tbody> </table>					出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	①	12名	75.0%	88.9%	90.6点	②	12名	100.0%	100.0%	96.9点	③	12名	83.3%	70.0%	88.1点	④	57名	68.4%	79.5%	88.7点
	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点																									
①	12名	75.0%	88.9%	90.6点																									
②	12名	100.0%	100.0%	96.9点																									
③	12名	83.3%	70.0%	88.1点																									
④	57名	68.4%	79.5%	88.7点																									
自己評価	<p>市長部局、近隣自治体、市民団体と共催・連携して実施することで内容の充実を図っている。 多様な人権課題において、「暮らしの中の人権（学校編）」にフォーカスしてリーフレットを製作した。</p>																												

評価シート

外部有識者の意見	•集客に苦勞した講座については、広報や実施方法の見直しを行って欲しい。
今後の課題と取り組みの方向性	•人権教育・啓発に関する機会を継続的に設けていく。市長部局の人権担当と連携し、普遍的な人権課題のみならず、現代的な人権課題を取り上げていく。

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】

地域で子どもを育てる環境づくりの構築に向けた家庭教育講座が5回開催されている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	家庭教育講座事業																																	
事業内容	<p>目的：家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>手段：家庭教育の向上を図り、地域全体で家庭教育を支えるため、子育て中の保護者及び子育てに関する地域活動に関わる人たちへの支援を行う講座を企画し開催する。</p> <p>内容： 講師謝礼金 153,000 円</p>																																	
実績	<p>家庭教育講座</p> <p>① 「不登校・ひきこもりから考える 子どもの多様な学びと育ち」</p> <p>② 「幸せを呼ぶ魔法の声かけ・プラスの言葉」</p> <p>③ 「子育てに役立つ心理学～脳科学の視点から子どもの特性・発達を学ぶ」</p> <p>④ 「子育てスキルアップ講座 子どもの聞く耳が育つ伝え方」</p> <p>⑤ 「楽しく子育て！なかまづくりから始めませんか？」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>出席者数</th> <th>アンケート回収率</th> <th>点数記載率</th> <th>平均点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>30名</td> <td>90.0%</td> <td>88.9%</td> <td>95.7点</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>29名</td> <td>69.0%</td> <td>90.0%</td> <td>95.8点</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>26名</td> <td>46.2%</td> <td>91.7%</td> <td>84.1点</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>20名</td> <td>40.0%</td> <td>100.0%</td> <td>86.3点</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>10名</td> <td>80.0%</td> <td>100.0%</td> <td>86.6点</td> </tr> </tbody> </table>					出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点	①	30名	90.0%	88.9%	95.7点	②	29名	69.0%	90.0%	95.8点	③	26名	46.2%	91.7%	84.1点	④	20名	40.0%	100.0%	86.3点	⑤	10名	80.0%	100.0%	86.6点
	出席者数	アンケート回収率	点数記載率	平均点																														
①	30名	90.0%	88.9%	95.7点																														
②	29名	69.0%	90.0%	95.8点																														
③	26名	46.2%	91.7%	84.1点																														
④	20名	40.0%	100.0%	86.3点																														
⑤	10名	80.0%	100.0%	86.6点																														

評価シート

自己評価	• 緊急事態宣言の発出やコロナ対策により、4講座をzoomによるオンライン開催とした。開催した5講座は、保護者のニーズと合い、アンケート結果も概ね好評であった。
外部有識者の意見	• オンラインによる開催で集客とアンケート結果が非常に良好であったことを評価する。引き続き、オンラインのニーズを鑑みて事業を実施してほしい。
今後の課題と取り組みの方向性	• 子育て中の世代が参加しやすいオンライン開催を積極的に取り入れ、学習機会の充実を図る。

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
市指定文化財の数が増加している。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	文化財保護委員会経費
事業内容	目的：専門的な考察に基づいて文化財保護行政を推進する。 手段：諮問等を通じて学識者の意見を徴取する。 内容：文化財保護委員会の運営 市指定文化財の新規指定に向けた調査の実施
実績	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会から諮問を受けて文化財保護委員会を開催し、学術調査の結果に基づく答申を行った。 新たに市指定文化財を1件指定した（池子神明社神輿）。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 慎重に検討を重ねてきた候補物件の学術的価値を確定し、新規指定を実現した。
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 性質上、評価が困難な物件の価値を明らかにし、指定を実現したことは評価できる。 毎年新規に指定するよう、計画的に取り組みを進めるほか、指定文化財の周知にも努められたい。
今後の課題と取り組みの方向性	<p>関連予算を確保し、継続的に新規指定を実現していくとともに、様々な機会をとらえて指定文化財を市民に公開する。</p>

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
名越切通、長柄桜山古墳群第1号墳の整備が完了し、公開活用されている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	名越切通維持管理事業
事業内容	目的：国指定史跡名越切通の保存活用を図る。 手段：指定地の環境を適切に維持管理し公開する。 内容：まんだら堂やぐら群の公開 植生管理、施設補修 など
実績	<ul style="list-style-type: none"> まんだら堂やぐら群限定公開を実施した。 公開日数 47日 入場者数 7,541人 寄附金 416,098円 除草、樹木伐採、倒木処理、路面整備等を適宜行った。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 史跡内で倒木や斜面崩落が発生したが、早期回復に努め、適切に維持管理した。 まんだら堂やぐら群限定公開について、運営方法を精査し、おおむね順調に終了できた。
外部有識者の意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあっても適切な対策を講じて活用が図られたことは評価できる。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 史跡全体の維持管理を適宜行う。 まんだら堂やぐら群限定公開について、安定的な管理運営体制を構築する。

評価シート

令和3年度の取り組み

関係する事業名	名越切通整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡名越切通を適切に整備する。</p> <p>手段：整備実施計画に基づき、国庫補助事業として計画的に執行する。</p> <p>内容：整備検討会の開催 遺構保存のための設計、監理、施工</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・民間施設に隣接する斜面の崩落対策工事（防災工事）を行った。 ・整備検討会（現地視察）を開催し、斜面对策工事及び次年度のやぐら保存工事に係る指導助言を得た。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の懸案であった斜面对策について、立地上の制約に係る困難な諸条件をクリアし、滞りなくしゅん工した。
外部有識者の意見 （文化財保護委員会・名越切通整備検討会）	<ul style="list-style-type: none"> ・困難な防災工事が計画通りにしゅん工したことは評価できる。 ・まんだら堂やぐら群C群は、立地の制約上、安全に公開活用するための課題が多いため、当面は着実に保存措置を講じてほしい。
今後の課題と 取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・石造文化財の保存修理にかかるこれまでの貴重な知見を適切に整理し、整備完了時すみやかに整備報告書を刊行する必要がある。 ・まんだら堂やぐら群C群は保存措置を優先し、限定的な方法を含め、適切な公開活用の方法を検討する。

評価シート

令和3年度の取り組み

関係する事業名	古墳整備事業
事業内容	<p>目的：国指定史跡長柄桜山古墳群を適切に整備し、維持管理する。</p> <p>手段：整備実施計画に基づき、国庫補助事業として計画的に執行する。指定地の環境を適切に維持管理する。</p> <p>内容：整備検討会の開催 遺構保存及び活用のための設計、監理、施工 植生管理、修景伐採 など</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> • 整備検討会を2回開催し、施工内容を検討した。 • 実施設計に則り、第1号墳整備工事（園路広場工、遺構表示工ほか）を行った。 • 除草等の維持管理を適宜行った。 • ボランティアによるパトロールを行った（通年、93回）。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> • 国庫補助金の縮減や市の財政事情により年次計画が順延しているが、令和6年度の供用開始に向けて着実に進捗している。
外部有識者の意見 （文化財保護委員会・古墳整備検討会）	<ul style="list-style-type: none"> • 長期間を要しているが、厳しい財政状況の中、第1号墳の保存整備は順調に進んできている。 • 整備完了後は、周辺住民の理解を得つつ公開活用ができるように検討して頂きたい。
今後の課題と 取り組みの 方向性	<ul style="list-style-type: none"> • 史跡全体の公開活用や周辺便益施設の整備について、周辺住民から住環境への十分な配慮を求められていることを踏まえ、葉山町や関係部局と連携しつつ検討する必要がある。

評価シート

所管課：社会教育課

目標【2022年度】
文化財収蔵庫が設置され、遺物が適切に保管されている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	池子遺跡群保護事業
事業内容	<p>目的：市民が地元の歴史に触れることができるよう、出土資料の公開活用を図る。</p> <p>手段：池子遺跡群発掘調査資料等を適切に保存・整理し展示公開する。</p> <p>内容：池子遺跡群資料館の運営、維持管理 所蔵資料保存処理</p>
実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間開館日数 275日 来館者数 1,426人 資料5点（木製品4点、金属製品1点）の保存処理を実施した。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言に伴い約1カ月半臨時休館となったが、年間来館者数はおおむね例年並みを確保した。 展示品を一部追加したが、更に内容の充実を図る必要がある。 文化財収蔵庫について具体的検討は進まなかった
外部有識者の意見（文化財保護委員会）	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあっても適切な対策を講じて活用が図られた。 池子遺跡群資料館だけでは文化財の展示・収蔵場所として十分ではなく、新たな場所を確保すべく努力して欲しい。
今後の課題と取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 池子を中心としつつ郷土史にかかる総合的な展示となるよう、内容の更新や特別展示等を検討する。 収蔵庫について、当面は既存施設内の整理や移動等によりスペース確保に努めるとともに、公共施設の統廃合等の機会を含め、新たな場所の確保を検討する。

評価シート

所管課：図書館

目標【2022年度】
図書館において、様々なテーマの設定により、年間30回以上の図書館の展示を行い、読書の推進を図る。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	図書館活動事業																					
事業内容	<p>目的：読書普及のための図書館活動を積極的に展開し、利用者が読書に親しむ機会の提供とレファレンスサービス（調べもの相談）の充実など図書館利用の促進を図る。</p> <p>手段：展示やイベントを継続的に行い、また Twitter 等を通じて積極的に情報発信をする。</p> <p>内容：目標にある「年間30回以上の図書館展示」を行うにあたり、時事や地域性を考慮し、利用者が読書への興味を持つ展示を行う。</p>																					
実績	<ul style="list-style-type: none"> • 登録状況 登録者数（内、3年度新規登録者） 40,924人（3,302人） • 貸出状況 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>図書館</td> <td>176,999人</td> <td>405,970点</td> </tr> <tr> <td>分室</td> <td>25,327人</td> <td>53,140点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>202,326人</td> <td>459,110点</td> </tr> </table> • 展示 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>図書館</td> <td>95回</td> <td>（一般60回 児童35回）</td> </tr> <tr> <td>小坪分室</td> <td>23回</td> <td>（一般12回 児童11回）</td> </tr> <tr> <td>沼間分室</td> <td>22回</td> <td>（一般12回 児童10回）</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>140回</td> <td>（一般84回 児童56回）</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">*一般展示には、郷土・健康医療・臨時・追悼・高齢者・名画座・視聴覚を含む。</p> 	図書館	176,999人	405,970点	分室	25,327人	53,140点	合計	202,326人	459,110点	図書館	95回	（一般60回 児童35回）	小坪分室	23回	（一般12回 児童11回）	沼間分室	22回	（一般12回 児童10回）	合計	140回	（一般84回 児童56回）
図書館	176,999人	405,970点																				
分室	25,327人	53,140点																				
合計	202,326人	459,110点																				
図書館	95回	（一般60回 児童35回）																				
小坪分室	23回	（一般12回 児童11回）																				
沼間分室	22回	（一般12回 児童10回）																				
合計	140回	（一般84回 児童56回）																				

評価シート

<p>自己評価</p>	<p>令和2年度はコロナ禍にて一部期間休館せざるを得なく、年間242日の開館に留まったが、令和3年度は引き続き感染対策が必要な状況下で、一部サービスの縮小は行っていたものの閉館することなく事業を継続し299日の開館を確保、展示はコロナ前を上回る回数となった。</p> <p>また、令和3年度は横浜市との相互利用を開始したこともあり、新規登録者数が増加した。</p> <p>その他、館内に無線LAN（Wi-Fi）設置を行い、利用者の調査・研究が向上するよう、サービス提供を行った。</p>
<p>外部有識者の意見</p>	<p>令和3年度もコロナ禍における図書館運営となり、相当の苦慮があったものと推察する。引き続き感染対策を図りながら休館せずに事業継続を行ったことを大いに評価する。</p> <p>貸出状況も人数・点数ともに前年度に比べて大幅な増加となり、コロナ禍以前のサービスへの回復傾向がみられる。このことについては、単に開館日数が前年度に比して開館日数が増加していたから、という理由だけではなかろう。特にここで示された展示の実績からは、より積極的な姿勢で取り組んだことを評価する。一方で回数が増えると類型化・均一化したテーマとなることもあろう。様々な情報にアンテナを張り、今後も利用者に興味を持ってもらえる展示が企画されることを期待する。</p> <p>現在、各種SNSは、より我々の身近な通信メディアとなっている。図書館からの「Twitter等での積極的な情報発信」についても今後積極的に取り組んでもらいたい。</p> <p>横浜市との相互利用開始により、市民の利用可能な図書館が増えたことは喜ばしいことである。今後は、こうした他自治体との連携協力が逗子市民に対する図書館のサービス水準の確保および向上にどのようにどのように結びつくか、等についてより具体的な検討と評価が必要と考える。他市町の図書館の動向の把握なども合わせて実施されたい。</p> <p>無線LAN（Wi-Fi）を導入している公的機関は増加している。図書館本来の利用（調査・研究）に資する利用となるよう、市のデジタル化の指針を含め、運営方法について</p>

評価シート

	の慎重な検討を望む。
今後の課題と取り組みの方向性	<p>展示の回数は令和 2 年度に引き続き目標値を達成したが、展示は「展示しただけ」では自己満足に過ぎないことから、展示した資料がいかに関心者の興味を喚起し、借りられているかが、関心者のニーズを把握できるカギになると考える。今後はそれらの統計もまとめ、魅力ある展示の傾向を探っていくとともに、特定の分野に限らない幅広い展示を保っていく。</p> <p>コロナ禍における新たな情報発信ツールとして、Twitter 等 SNS を活用し情報発信を行い、一定効果があったことから、今後も積極的に行っていくが、必ずしも万人が利用しているものではないため、紙媒体等の情報発信も継続していく。</p> <p>終わりの見えないコロナの状況だが、臨時休館を引き起こさぬよう、今後も感染対策に細心の注意を払っていく。</p>

5 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち

(基本構想の取り組みの方向)

これまでわたしたちが築いてきたノーマライゼーションとリハビリテーションの理念を継承し、障がいのある人もない人も、誰もが分け隔てられることなく、「地域で自分らしく生きるため」「安心して納得できる生き方を求めて」、それを実現していくことができるまちづくりを進めます。

障がいのある人を取り巻く環境は、複雑化、多様化しています。誰もが生まれてからずっと安心して暮らし続けられるよう、ライフステージに応じた一貫した支援体制を充実するとともに、災害等緊急時の備え、バリアのない環境づくりを進める必要があります。

また、道路や施設等の整備だけでなく、こころのバリアフリーも実現し、障がいのある人ない人、団体、地域などあらゆる主体が支え合えるようなまちづくりを進めます。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：療育教育総合センター

目標【2022年度】
(仮称)療育・教育の総合センターで実施する相談及び障害児通所支援を利用したことがある子どもの、市内の18歳までの子どもに対する割合が9.5パーセントになっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	療育推進事業
事業内容	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,910,000円 アドバイザー等経費 1,255,000円 光熱水費 2,750,996円 センター療育部門委託料 52,872,889円 送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
実績	<p>○療育教育総合センターの運営</p> <p>【相談体制の充実】</p> <p>*相談件数 6,964件 相談者数 614人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向け公開講座及びペアレントプログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催を中止した。 ・保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援（延べ46回／対象児実人数161名／延べ数201名） ・療育相談員、専門員等の配置

評価シート

	<p>(SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名)</p> <p>【教育等関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校への定期巡回相談による支援者支援 (延べ13回/対象児実人数46名) • 支援シート作成会議への参加 (延べ2回/対象児実人数22名) • 学校へのコンサルテーション (延べ129件) • 就学予定児の情報連携会議 (延べ9回) • 学齢期担当相談員による各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席 <p>【療育機能の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 児童発達支援事業の実施 (実人数39名/延べ1,346回利用) • 放課後等デイサービスの実施 (実人数52名/延べ774回利用) <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 12.6%</p>
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止せざるを得ない事業もあったが、支援が途切れることのないように電話やオンライン等を活用しながら、利用者の不安解消や関係機関との連携を図ったことにより、センター利用者の割合は順調に推移している。</p>

評価シート

外部有識者の意見	<p>事業進捗状況については目標を達成している。</p> <p>施設による子どもへの虐待などが相次いでいる報道もあり、今後の取り組みとして、サービスの質をどう高めるか、個別のニーズにいかに対応するか、行政と事業者、利用者などが連携して検討してもらいたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した事業に関しては、with コロナ社会に対応した手法等を引き続き検討していく。</p> <p>サービスの質をどう高めるか、個別のニーズにいかに対応するかについては、センターの運営改善案を立案しつつ、利用者及び関係機関と綿密に連携して検討していく。</p>

評価シート

所管課：療育教育総合センター

目標【2022年度】
（仮称）療育・教育の総合センターにおいて、障がいのある子ども、発達に心配のある子ども（0歳～18歳）に対してライフステージに応じた継続的な支援が行われている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	療育推進事業
事業内容	<p>目的：障がいのある子どもや発達に心配のある子ども及びその保護者が、生涯安心して地域で生活できるよう支援する。</p> <p>手段：子どもの人権を尊重し、一人ひとりの子どもが現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるよう教育と連携した総合的な支援を行う。相談機能を充実させ、学齢期も含めたワンストップ相談受付ができる体制を整え、保護者や支援者の幅広いニーズに応じる。新たな療育体制を構築し、専門性を向上するとともに、教育との連携を強化し、就学後も継続した支援を行う。</p> <p>内容：療育相談員・専門員等報酬 32,910,000円 アドバイザー等経費 1,255,000円 光熱水費 2,750,996円 センター療育部門委託料 52,872,889円 送迎車両賃借料 1,632,960円</p> <p style="text-align: right;">ほか</p>
実績	<p>○療育教育総合センターの運営</p> <p>【相談体制の充実】</p> <p>*相談件数 6,964件 相談者数 614人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向け公開講座及びペアレントプログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、開催を中止した。 ・保育所、幼稚園等への定期巡回相談による支援者支援（延べ46回／対象児実人数161名／延べ数201名） ・療育相談員、専門員等の配置

評価シート

	<p>(SW2名、学齢期担当相談員1名、心理士3名、言語聴覚士4名、理学療法士1名、作業療法士3名、保育士2名、保健師1名、嘱託医3名)</p> <p>【教育等関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校への定期巡回相談による支援者支援 (延べ13回/対象児実人数46名) • 支援シート作成会議への参加 (延べ2回/対象児実人数22名) • 学校へのコンサルテーション (延べ129件) • 就学予定児の情報連携会議 (延べ9回) • 学齢期担当相談員による各学校との情報共有のほか、就学相談説明会の実施及び校長・教頭会議、教育相談CD担当者会議、特別支援学級担当者会議、幼保小連携会議等への出席 <p>【療育機能の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 児童発達支援事業の実施 (実人数39名/延べ1,346回利用) • 放課後等デイサービスの実施 (実人数52名/延べ774回利用) <p>○市内の18歳までのセンターにおける相談・サービス等利用者の割合 12.6%</p>
自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止せざるを得ない事業もあったが、支援が途切れることのないように電話やオンライン等を活用しながら、利用者の不安解消や関係機関との連携を図ることで、ライフステージに応じた継続的な支援を推進することができた。</p>

評価シート

外部有識者の意見	<p>事業進捗状況については目標を達成している。</p> <p>施設による子どもへの虐待などが相次いでいる報道もあり、今後の取り組みとして、サービスの質をどう高めるか、個別のニーズにいかに対応するか、行政と事業者、利用者などが連携して検討してもらいたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した事業に関しては、with コロナ社会に対応した手法等を引き続き検討していく。</p> <p>サービスの質をどう高めるか、個別のニーズにいかに対応するかについては、センターの運営改善案を立案しつつ、利用者及び関係機関と綿密に連携して検討していく。</p>

6 誰もが心豊かに子育てできるまち

（基本構想の取り組みの方向）

急速な少子化の進行や、家庭や地域を取り巻く環境の変化、地域とのつながりの希薄化の中で、心豊かに子育てをするためには、子育てに対する不安や孤立感を減らし、子育ての喜びを実感できることが必要です。子育てを親が主体的に行えるよう、まち全体で子育てを応援し、住みなれた地域で安心して子どもを生み育てることのできる総合的な支援体制の充実をめざします。

さらに、家庭環境や雇用形態の多様化などを踏まえ、家庭と地域や学校等が相互に協力し、まちを生かした豊かな遊びと学びの環境を整え、すべての子どもが愛され信頼されることを通じて、次世代を担う子どもたちが、心身共にたくましく生きる力と豊かな人間関係を培うことができるよう、地域と共に育むまちづくりをめざします。

— 逗子市総合計画（2015～2038）から抜粋 —

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
子育てに関するポータルサイトのアクセス数が、2018年度の年間アクセス数の20パーセント増となっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	子育てネットワーク構築事業
事業内容	<p>目的：子育てに関係する情報の一元化、総合化を行い、子育て情報の提供を充実させる。</p> <p>手段：子育てに関するポータルサイトを構築し、インターネットを活用した情報の発信と収集を一元的、総合的に行う。</p> <p>内容：子育てポータルサイト「えがお」の運営 子育てに関わるネットワーク会議の運営</p>
実績	<p>○子育てポータルサイト「えがお」のアクセス数 173,549件/年（14,460件/月）</p> <p>○子育てネットワーク会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ZOOMによるオンラインにより1回開催した。</p> <p>○子育てポータルサイト内「えがおレポート」と子育て応援紙「陽だまり」に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、活動した。（えがおレポート15件、陽だまり2号）</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら実施する子育て支援センター「子育てひろば」のイベントなどを、えがおレポートやえがおFacebookを活用し情報発信を行った。</p>
自己評価	ポータルサイトのアクセス数が、2020年度実績（139,040件/年）に比べ125%となっはいるが、目標は達成されていない。

評価シート

外部有識者の意見	<p>アクセス数が前年比 125%と伸びていることは評価する。</p> <p>今後、市内の子育てイベントをまとめて見れるなど、より情報の集約、内容を充実されたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>市ホームページ更新に合わせ、より分かりやすいページに直していく。</p> <p>市ホームページ以外にも、Facebook やインスタグラム等を活用した情報発信を充実させる。</p> <p>イベントなどの情報提供は、画像を利用したわかりやすいデザインとするなど、より一層、魅力あるコンテンツを提供できるよう工夫していく。</p>

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
逗子市体験学習施設「スマイル」の主催講座の年間延べ参加者数が2,000人、年間延べ利用者数が60,000人になっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	体験学習施設講座等事業
事業内容	<p>目的：児童青少年の健全育成に資するため、今までに経験したことのない、また、興味をもってもらえるようなことについて体験する講座を開催する。</p> <p>手段：各講座の実施</p> <p>内容：主催講座謝礼金 288 千円</p>
実績	<p>【主催講座年間延べ参加者数】 557 人 20 講座実施</p> <p>【年間延べ利用者】 15,640 人（2020 年度 9,862 人）</p> <p>体験学習施設利用者数 児童青少年 1,798 人 大人 705 人</p> <p>池子ほっとスペース 利用者数 13,137 人</p>
自己評価	<p>体験学習施設が、新型コロナウイルスワクチン接種会場に指定されたため、利用者数の大半を占めるスポーツルームを閉館したことから、利用者数が激減した。講座についても新型コロナウイルスの感染状況によって中止になったものもあり、受講者数が伸びなかった。</p>
外部有識者の意見	<p>コロナ禍により、施設が設置目的である青少年の健全育成のために利用できなかったため、利用者の減につながったことは、いたしかたない。青少年に対する事業、イベントについて感染症対策を行い、積極的な開催を行う方針で進めていただきたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>感染対策をしっかりと取り組み安心できる環境を整えながら、子どもたちを引き付ける講座の内容を更に工夫し、充実させていきたい。</p>

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】

「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」における子育ての環境や支援の満足度が25パーセントになっている。
--

※「逗子市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」は、5年に一度実施することとなっており、次期調査は、令和5年度に実施する予定である。直近の平成30年度実施の調査では、子育ての環境や支援の満足度が24.15パーセントであった。

評価シート

所管課：保育課

目標【2022年度】

教育・保育施設等を希望する人すべてが、希望する施設を利用できる。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	施設型給付事業、保育所入所措置事業、地域型給付事業、幼児教育・保育無償化給付等事業
事業内容	<p>目的：経済的理由により、希望する教育・保育施設等を利用できないことが無いよう支援する。</p> <p>手段：幼児教育・保育の無償化による給付を実施する。</p> <p>内容：経済的負担を軽減することにより希望する施設を利用できるよう、市内の幼児教育・保育施設に対し、受入児童の年齢や人数に応じた給付費を支払う。</p>
実績	<p>施設型給付事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付額 932,782,271 円 ・給付対象人数 10,437 人（延べ人数） <p>地域型給付事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付額 176,870,550 円 ・給付対象人数 916 人（延べ人数） <p>幼児教育・保育無償化給付等事業（令和元年10月から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給付額 177,199,732 円 ・給付対象人数 749 人
自己評価	<p>令和3年4月1日時点の待機児童数は5名で、令和2年度の22名から大きく減少した。</p> <p>これは、小規模保育事業1か所（1・2歳児19名）開設と新型コロナウイルス感染症の影響による申請者の減少によるものと思われる。</p> <p>また、保護者の勤務等の状況を聞き取り、ライフスタイルに合わせて、預かり保育のある幼稚園や企業主導型保育施設などの新しい形の保育施設を紹介し、認可保育所以外の選択肢を増やし、個別のニーズに合った保育所選びができるよう相談に応じた。</p> <p>併せて「広報ずし」9月号巻頭特集において、現在の教育・保育施設の現状を掲載し市民に広く周知した。</p>

評価シート

	<p>その他、きょうだい別園の解消や多胎児や多子世帯を対象にした加点等、真に保育を必要とする人が利用できるような利用調整基準の改訂を実施した。</p> <p>なお、令和4年4月1日時点の待機児童数は、申請者が増えたことにより、13名となっている。</p>
外部有識者の意見	<p>待機児童がいる中で、受入れ枠のある園もあるのは、空いていても希望する方がいないということだと思うが、できるだけ柔軟に市で調整して、待機児童の解消に努められたい。</p>
今後の課題と取り組みの方向性	<p>各園の受け入れ枠と利用者とのマッチングの問題を解決するため、施設の多様化、保護者のニーズの多様化に対し利用者に寄り添いながら柔軟に対応していく。</p>

評価シート

所管課：子育て支援課

目標【2022年度】
ほっとスペースの年間延べ利用者数が26,000人になっている。

令和3年度の取り組み

関係する事業名	ほっとスペースの運営 (ふれあいスクール事業)
事業内容	目的：乳幼児の子育てを支援することを目的としてほっとスペース事業を実施。 手段：ほっとスペースの開設 内容：ふれあいスクール・サブ・アシスタントパートナー 報償金等 57,318 千円
実績	◎開設日数 79日(逗子) 72日(久木) 108日(小坪) 143日(沼間) 292日(池子) 計 694日 ◎延べ利用者数 ・逗子ほっとスペース 1,582人 ・久木ほっとスペース 294人 ・小坪ほっとスペース 232人 ・沼間ほっとスペース 668人 ・池子ほっとスペース 10,361人 計 13,137人(2020年度 10,443人)
自己評価	昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、予約制による人数制限をしたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防対策の浸透もあり、昨年度と比較して利用者は増加した。 施設の情報は、広報ずしやホームページ、メールマガジンなどで発信しており、新たな利用者の確保をするため、利用ニーズの掘り起こしに取り組んでいく。

評価シート

外部有識者の意見	コロナ禍による利用制限は仕方ない。 子どものためだけでなく、保護者自身が参加してみたいと思うような企画を更に充実されたい。
今後の課題と取り組みの方向性	逗子や久木においては、ふれあいスクール事業との併用職員や併用の部屋といった、サービス提供体制上の制約があり、今後はふれあいスクールや学童保育のサービス提供体制の検討にも取り組んでいく。 また、感染対策をしっかりと取り組んだうえで、乳幼児の子育てをして、悩んでいる保護者ための環境を整えていきたい。

7 教育委員会への意見及び助言

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響のため、実施事業数等が目標に達しなかった事業もあるが、新たな工夫により、概して事業の質的向上がはかられたと判断できる。

1. 文化を新たに創造するまち

文化活動振興事業は30企画という当初目的は達成できなかったが、昨年度の14企画を上回る22企画も実施でき、地域活性化などの成果が得られたことは評価に値する。文化プラザホール事業は22事業実施され、満足度は全体で90%に達しなかったとは言え、80%前後になっていることから市民のニーズに応えられたと言える。館利用者数も目標に及ばなかったが、当初目標がコロナ禍の継続をにらめばもっと少なくてもよかったと思われる。

2. スポーツを楽しむまち

スポーツ推進事業は、参加数は目標以下であったとしても、その実施によってコロナ禍におけるスポーツの場を提供し、逗子アリーナ未病センターが相談者のニーズに十分応えたと評価できる。スポーツクラブの会員登録者数は前年度よりも回復している。

コロナ禍においては、外出機会が減ることから運動不足になる傾向にあるため、参加数や実施回数等にこだわらずこれまでの事業等を感染対策に配慮しながら継続させていったことは高く評価できる。

3. 学校教育の充実したまち

「お互いを認め合える学級づくり」は本市の特色ある取組の一つだと言える。コロナ禍では仲間づくりが困難になる可能性があることから、対話的な仲間づくりと並んで、今後の課題に記されているようにICTの効果的な活用方法の開発を期待したいところである。

教員の「チェックリスト」は予定通りに実施できたようで、教員の資質向上に資する取り組みだと思われる。課題にも記されているように、巡回チーム等が教員一人ひとりの授業参観を行い、振り返りを行うことが負担になっているが、参観等は教員を半数ずつに分けて隔年で実施するなども検討されたい。

ICT環境は十分に整備されていることが分かる。GIGAスクール

が前面に出てしまい、形式的な活用に終わっている可能性がある。校内研修等で効果的な活用方法を校内で共有化することに努めることを検討されたい。

4. 子どもも大人も共につながり成長していくまち

社会教育事業の要求課題については受講者を集めやすいが、人権教育等の必要課題は集客が困難な傾向にあるので、人権教育講座の参加者数の少なさは特に企画に問題があったとは考えられない。ただし、体験活動やものづくり、映画などニーズの高い学習とうまく融合させると参加数の増加が見込まれる。このような事業は引き続き実施することが望まれる。ただ、家庭教育講座の出席者数が回を重ねる毎に減少している点は気になる点である。

文化財に関する啓発や保護事業は、地道に実施されている様子が見取れる。図書館活動事業は展示回数が目標値を大幅に上回り、市民の読書ニーズに十分応えられたと評価できる。なお、今後は図書館と学校図書館との相互貸借や児童サービスの充実も課題になるであろう。

5. 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち

療育教育総合センターの相談事業は、目標値が 9.5%に設定されているが、この数値が増えたことを高く評価すべきか、あるいは低下したことを高く評価すべきか判断の分かれることである(相談件数も同様)。低くなったことは相談を要するほどの課題が軽減したとも解されるからである。課題解決に至ったのかを目標にしてもよいと考えられるので、その目標設定方法を変えてもよいだろう。ただし、施設利用者や相談者が増えたことは教育委員会の対応としてはニーズに十分応えた点で高く評価できる。

6. 誰もが心豊かに子育てできるまち

子育てポータルサイトへのアクセス数は 2018 年度比 20%増に至らなかったとは言え、2020 年度比で大幅に増加している点は評価できる。今後もサイトへのアクセスを促すための広報を工夫されたい。

スマイル主催講座は、実施数と参加者数が目標値をはるかに下回っているが、子ども対象であることからやむを得ないと判断す

る。コロナが収束すれば、目標値に近づく、または超える数値に達することが十分期待できる。

教育・保育施設の待機児童数 0 になっていないが、希望者の増加、さらに住所地と施設の立地のマッチングの問題などがあることは理解できる。引き続き、待機児童 0 に向けた条件整備を継続して欲しい。また、ほっとスペース利用者数は目標値に達しなかったが、前年度を大きく上回ったことは評価できる。今後は未利用者をこれら事業に取り組む工夫が課題になると思われる。

7. 教育委員会への意見及び助言

教育委員会の活動については、定例会のほか、学校訪問を数多く実施し、その意義を理解できるが、社会教育施設・事業に対しても訪問等の対象に加えることも検討されたい。「勉強会」はその内容が報告書からは分かりかねるが、これを社会教育視察・施設訪問に代えることが考えられる。ただし、委員の負担増を避けるよう工夫されたい。

総合的にみて、令和 3 年度は前年度よりも事業実施数や市民の参加数が回復傾向にあることが認められるが、これは市教育委員会としてコロナ禍に対応すべき工夫がなされた結果だと判断できる。事業評価については、「運営」の点から見れば、市民の諸活動が円滑に行われるための環境醸成がなされた点で評価がなされる。一方、「経営」の観点からは何らかのリターンが得られることが評価対象になる。リターンとは地域の活性化や課題解決がなされたなどのことが該当する。この点についての実態把握に努め、報告書に記されることが望まれる。

コロナウイルス感染防止対策への対応をしつつも、これまでの経験を生かし、創意工夫しながら取り組まれた努力が窺えます。

○文化を新たに創造するまち

アートフェスティバルは、昨年に引き続きオンラインも活用し、コロナ禍でも参加可能なイベントになるよう工夫されたことは評価できます。今後も様々な開催方法を模索し、地域コミュニティの活性化の一助となることを期待いたします。市民が主体的に活動しているとのことですが、メンバー以外の市民参加・協力についても、その方法を検討していくことは必要かと思われま

す。文化プラザホール維持管理事業においては、事業間連携が満足度にも影響していると考えられます。事業間の連携充実の継続を期待します。また、社会包括事業における0歳児から参加できる講演は、母子にとってありがたい企画だと思われま

す。子育て支援にもつながります。引き続き、0歳児期の母子でも参加できる機会を設けていただきたいと考えま

満足度調査においては、結果として満足度が低下したとのことですが、状況に応じた柔軟な対応や丁寧な説明等、市民に寄り添った対応をしていることが窺えます。一方で、入場者数が今年度も大幅減少している結果が報告されています。コロナウイルスを原因としていますがその他の原因がないかを見直す良い機会にもなるかと考えられます。目標設定は、社会の状況に合わせた設定にすることも一つの方法かと考えられます。

○スポーツを楽しむまち

逗子市スポーツの祭典は、世の中の況に対応しながら、可能性を模索しつつ実施できたと考えられます。オンラインの活用、だれもが参加できるようなメニューを導入することにより、結果として、多くの市民がスポーツに取り組む機会づくりとなったように思います。引き続き、スポーツに触れるきっかけづくりとなるようなアプローチの検討に期待しま

す。スポーツ推進事業では、スポーツ協会と未病センターとの連携、小中学生も取り組みたくなるような種目の追加等、スポーツ支援体制の充実を図ることに期待します。市民の健康をサポートするためにはより多くの市民に知ってもらうための工夫も必要かもし

ん。

逗子市スポーツ協会の自主事業は、コロナ禍にありながらもメニューや開催等の工夫をしたことがより多くの市民の参加につながっているようです。引き続き、状況を鑑みながらも参加者のニーズに応じたメニュー設定に期待します。

○学校教育の充実したまち

現代の教育現場において、支援教育巡回チームや教育指導教員の役割が大切なことが、また、組織として対応できる体制づくりを行ってきたことが窺えます。引き続き、子どもの人権が保障されるような学校づくりへの取り組みに期待します。今後は、ICTの一層の活用にも期待します。

教員の指導力向上のためには、PDCA (Plan Do Check Action) サイクルが欠かせないでしょう。「自己チェックリスト」の活用は、自身の振り返りに役立つツールの一つだと考えられるため、振り返りがその後の指導力向上につながっていることを願います。

○子どもも大人も共につながり成長していくまち

人権教育に関しては、世の中全体が十分認知するまでにはもう少し時間が必要かと考えられます。引き続き、市民の認知度が高まるような内容を工夫していただき、人権教育・啓発に努めることを期待します。

家庭教育講座事業では、講座内容が家庭教育の現状とマッチしている内容であったと考えられます。休園、休校、在宅ワーク等が開始されたこともあり、全国での虐待相談件数が増加傾向にあります。そのような中で、このようなテーマでの講座開催は、広い意味での虐待防止、子育て支援の一つにつながると考えられます。今後も、オンライン等可能な方法で開催を実現し、子育て力向上につながることに期待します。

市指定文化財の新規指定が行われていますが、これまでに指定された文化財も含め、周知に努めてください。

崩落対策工事が竣工したことについて、昨今、異常気象による災害が増加していることから、早急な対応が実現したことを評価します。

古墳整備事業では、年間 93 回のパトロールをボランティアが行

ってくださっていることについて、市民の皆様の善意に感謝したい。

図書館活動事業では、利用者ニーズに応じた展示・館内整備、情報発信方法等の工夫がなされています。コロナだからできないという意識ではなく、コロナでもできることがあるという前向きな視点に立ち取り組んだことも、登録者数増加につながっていると考えられます。

○障がい者が安心して自分らしく暮らし続けるまち

療育推進事業では支援が途切れないような体制づくりがなされています。子どもの人権保障をベースとし、引き続き相談・療育両部門の連携及び学校との連携、その他関係機関との連携を丁寧に行い、子どもが安心して生活できる環境の提供に努めていただきたい。

○誰もが心豊かに子育てできるまち

子育てネットワーク構築事業におけるポータルへのアクセス数が大幅に増加していることについて、利用者の立場に立った使いやすさの工夫が増加数にも反映されたことが窺えます。

体験学習施設講座等事業においては、施設の利用において大きな制約があったものの、実現可能な限り、事業・イベントを実施したことは、児童青少年の健全育成において効果が期待できると考えられます。どのような状況であっても子どもは成長していきます。「できない」のではなく、「今できることを行おう」という前向きな意識を持ち引き続き取り組んでほしい。

○まとめ

これまでの経験と反省を生かし、コロナ禍においても様々な方法における開催等の実現に向けた取り組みを模索していたことが窺えます。「コロナ禍でもできることは何か」という、前向きな意識が今回の実績につながったと考えられます。今後も、可能性の模索をしていただけることに期待いたします。

目標を数値で設定し、それに伴い、数値から評価をしていくことも大事です。加えて、数値では読みとり切れない事柄を把握・分析し、次年度の取り組みに生かしていくことも、逗子のより良い教育施策の実現につながると考えられます。

逗子市教育委員会 教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.lg.jp